

【本文】

如来えこうの回向きにゆうに帰入きいりして

願作がんさぶつしん仏心ぶつしんをうるひとは

自力じりきの回向きにゆうをすてはて

利益りやくうじょう有あ 情じょうはきはもなし

【意識】

私達に既に恵まれていた南無阿弥陀仏は、この阿弥陀をよりどころとなさい、必ず極楽へ連れ往きますよ」という阿弥陀様の救いの心です。このお心に帰依して、

極楽にて成仏させて頂きたいと思う人は、自分の心が良いから、行いが良いからという誤りを捨て去って、

十人が十人、阿弥陀様の極楽浄土へと往かせて頂くのです。

【私の味わい】

供養とは、「ものを奉げて回向すること」です。回向、という言葉はお布施の袋に

「回向料」(浄土真宗ではしません)と書かれたのを時折目にします。日ごろ蓄えた良き行いと功德を、故人に向かつて奉げることが回向であり、供養です。行い、発言、心が全て淨い人でなければ実現できないのが供養です。ご法事は、この目的のために行われていると誤解されてないでしょうか。

浄土真宗において、ご法事は亡き人が阿弥陀様の懐に抱かれて極楽へ往かれた、私たちと同じように往かせて頂くのである、との思いで行われます。極楽の主たる阿弥陀様が、「必ず連れ往く、この阿弥陀を依りどころになさい」と仰る心を大事にさせて頂くのが、法事の意味合いなのです。これを仏徳讃嘆(仏様の功德をお讃えさせて頂く)といいます。人間の側の功德を主とせず、阿弥陀様を主とするのです。

親鸞聖人は、「ご自身の心の暗闇の部分をごまかすことなく見つめられたお方で、必要以上に欲して止まず(貪欲)、自分の意に沿わないものに怒り(瞋恚)、仏教に心を寄せず自分中心の姿から離れられない(愚痴)自分がどうして、功德を積みようか。いや、自分こそは、成仏するところが、地獄への道をひた走っているに過ぎない、と煩悶されました。その自分が唯一歩める仏道は、阿弥陀様のお慈悲による成仏道しかない」と法然聖人のもとへ身を寄せられていったのです。

自分の行いを誇るよりも恥じ、阿弥陀様のなさったことを喜ぶのが我が宗旨です。